

環境活動支援センターって こんなところ

市民農業大学講座を開催している環境活動支援センターでは、子ども(小学生)とその家族を対象に農作業を体験できる「家族で学ぶ農体験講座」など様々なイベントも開催しています。

また、森の情報を発信し、魅力を伝える「交流スペース」や数十種類のハーブが見られる「ハーブガーデン」など見所が満載です。

ぜひ、一度「環境活動支援センター」に足を運んでみてください!

【所在地】保土ヶ谷区狩場町213

【アクセス】最寄りのバス停は「児童遊園地前」・「児童遊園地入口」・「権太坂上」です。各鉄道駅からの案内はこちらからご確認ください。



案内・アクセスはこちら



市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!



市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。市内の農についてレポートしたナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください。

詳しくはこちら!



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama

みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!! ※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.7
2022.10

市民農業大学講座で学ぶ
「みどり」の助っ人



YokohamaみどりアップAction 第7号
(旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第42号) 令和4年10月発行
編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp





農や緑を支える人材の育成支援

緑を守りつくるため、横浜市では市民が活動しています。みどりアップ計画の3つの柱のうち「農」と「都市の緑と花」の助っ人をめざして、市民が学ぶ場が市民農業大学講座です。講座の様子と熱心な受講生の声を取材しました。なお、計画のもう一つの柱「森」を担う人材育成については次号で特集する予定です。 文：高橋 秀忠、村松 晶子

③トマトの収穫方法実習、④プロも使う種まき機を使用したニンジンの種まき実習、⑤⑥育成した野菜や花、⑦花壇の植栽管理実習、⑧ナシの袋掛け実習

市民農業大学講座とは？

野菜や果樹、草花、植木の栽培管理などの基礎を学び、座学で得た知識を実践しながら、栽培技術を身に付けることができる、横浜市主催の有料講座です。

受講生は30人。1年目は、主に保土ヶ谷区にある「環境活動支援センター」での講座(35回)。2年目は、市内の生産農家での農作業実習(10回)になります。

※実習回数は年度により異なる場合があります。



詳しくはこちら!



①座学で当日のカリキュラムを学びます

楽しみながら農業を学んでいます

取材時は、1年目の受講生がトマトやナスなどの収穫、ニンジンの種まき、花壇の管理を4グループに分かれて、和気あいあいとした雰囲気です。

花壇の植栽計画は、各グループが話し合い、作成します。春は春夏の草花、秋は秋冬の草花による個性豊かな花壇が出来上がります。

受講のきっかけは様々で、

- ボランティア活動の中でさらに知識を深めたい
- 市内に転入してから、程なくして「横浜農場」※を知り農業について学ぶことに心が動いた
- 昔やっていた花の手入れを再開したい

など、横浜の緑を、さらに大事にしたい思いが伝わってきました。

中には、新規に農業参入を目指し横浜ブランドの野菜を作りたい、と意気込んでいる人もいました。どなたも生き生きとした表情が印象的でした。

※「横浜農場」とは、農に関わる生産者や市民、農地・農景観、農業生産活動など「横浜らしい農業全体」を一つの農場に見立て、横浜の食や農のブランド化や魅力発信を目指す言葉です。



②種まきの事前準備

今後の活躍に期待!

2年間の受講の後は「農と緑の環境リーダー」として、農作業の手伝い(援農)や、公園・緑地でのボランティア活動などの場で活躍しています。

すでにボランティア団体や、シルバー人材センターに登録している人もいて、さらに活動を広げることが期待できます。「援農を希望するけれど、農家が受け入れてくれるか心配」という声もあり、修了生と農家との十分な橋渡しが大事だと思います。

修了生の自主組織『はま農楽』

市民農業大学の修了生たちが交流・技術・情報交換を深め、援農、緑化、農地保全などの活動を進めるために『はま農楽』という自主組織を設立しています。110人ほどの会員で、花班、野菜班、果樹班で、それぞれ毎週フォローアップ研修を行い、収穫祭や収穫体験などを行っています(新型コロナウイルス感染症の影響で中止もありました)。

援農については、昨年度は農家からの要望に応じて、延べ日数で、野菜942日、花卉128日、果樹1,342日の手伝いをしたそうです。横浜のような大都市では、市民が農家を手伝う形の援農が進むと良いと思います。「はま農楽」の活動に、今後も期待します。



ここがみどりアップ計画

農とふれあう場づくりとして、市民が農を楽しむ支援する取組を進めています。市民農業大学講座以外にも、子ども向けの農体験教室や、家族で参加できる農体験講座を、市内各地の水田や畑などで開催しています。

横浜みどりアップ 葉っぱ